

2004年(平成16年)6月11日(金曜日)

言

書

業

界

大阪

地域ニュース

## 「里山倶楽部」が里地里山保全コン入賞



カメラで草刈りをするメンバー

# 都会人、ら里山再生

で京式  
あす、彰表

ふるさとの自然と風景を守る活動をしている団体を全国から募り、優れた三十団体をたたえる「日本の里地里山30保全活動コンテスト」(読売新聞社主催、環境省共催)で、府内からは、里山保全に取り組み特定非営利活動法人「里山倶楽部」(久門太郎兵衛代表)が選ばれた。十二日に読売新聞東京本社で表彰式が行われる。

里山倶楽部の主な活動拠点は河南町持尾に広がる約三畝の雑木林。かつては、まき刈りや炭焼きが盛んに行われていたが、戦後の高度成長期に人の手が入らなくなり、雑然とした林になってしまったという。

同倶楽部は、都市部の人たちに「山仕事」の楽しさとやりがいを実感してもらい、里山の再生にもつなげようと、地元出身の久門さんらが一九九五年に結成。草刈りや間伐を実施したほか、伝統的な土窯を使って生産した木炭を販売し、利益を活動資金、地権者への

### 河南クヌギ植林、ササユリも復活

還元に充ててきた。現在、会員数は約三百七十人。炭焼き技術や野外料理、有機農業などを学ぶイベント、講座は十以上を数え、だれでも参加できる月一回の定例活動日には、多くの府民らがクヌギの植林などに汗を出している。ほぼ全滅していたササユリが間伐のおかげで復活するなど、効果は着実に上がっているという。

同倶楽部事務局長の大塚憲昭さん(51)は「自然の中で開放した気分を味わえるのが活動の魅力。受賞を励みに、里山を活用した自然エネルギー開発など新しいことにも取り組んでいきたい」と話している。問い合わせは、同倶楽部事務局(06・68889・6036)へ。